

Fill your tomorrow



# 2022年3月期 決算説明会

2022年5月13日

**新日本空調株式会社**

- 新型コロナウイルスの全世界的まん延が依然衰えず、人々の暮らしや企業活動に大きな影響を与える
- 後半にはオミクロン変異株の感染急拡大、世界経済の回復は鈍化、加えてロシアのウクライナ侵攻により、景気先行き不透明感が高まる
- 日本経済においては、企業の景況感にはバラつきあり、電子デバイス、精密機器、食品関連などの製造業は堅調で設備投資も回復基調
- 建設業では、都心を中心とした再開発などの不動産投資は堅調維持
- 資機材・労務費・運搬費の上昇傾向、技術者・技能労働者不足は継続
- AIやIoTを活用した技術革新と、カーボンゼロへの対応や、デジタルトランスフォーメーション、働き方改革による生産性向上への取組みは不可欠
- 気候変動などの地球環境問題への配慮、従業員の健康・労働環境への配慮など、サステナビリティを巡る課題への対応は、今後の事業の継続・成長に欠かすことのできない経営課題

1. 2022年3月期 決算実績
2. 2023年3月期 業績予想
3. 中期経営計画の進捗成果と今後の展望
4. 配当方針・配当予想



# 1. 2022年3月期 決算実績 連結業績サマリー

(単位：百万円、%)

	2021年3月期	2022年3月期	前期比
受注高	103,254	116,197	12.5
完工高	107,253	106,718	△0.5
完工総利益	13,917	14,546	4.5
完工総利益率	13.0	13.6	0.6
営業利益	6,386	6,881	7.8
経常利益	6,676	7,366	10.3
当期純利益※	4,637	5,403	16.5
繰越高	68,404	77,883	13.9

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益

# 1. 2022年3月期 決算実績 連結決算のポイント

- 受注は3期振りに前期比増となり回復
- 完工は前期比で微減
- 利益面では、受注採算性の向上、原価低減活動の浸透、業務効率の向上効果などにより改善を維持
- 完工総利益、完工総利益率は、設立以来の最高値を更新
- 当期純利益は、3期連続で設立以来の最高益を更新

# 1. 2022年3月期 決算実績 連結貸借対照表

- 【資産】 現金預金が33億9千3百万円増加、受取手形・完成工事未収入金が10億9千5百万円減少  
投資有価証券が17億2千7百万円減少
- 【負債】 支払手形・工事未払金等が11億3千3百万円増加  
短期借入金が25億2千6百万円減少
- 【純資産】 株主資本において利益剰余金が37億7千4百万円増加  
その他有価証券評価差額金が10億5千8百万円減少

(単位：百万円)

資産の部	2021年 3月期	2022年 3月期	前期比	負債・純資産の部	2021年 3月期	2022年 3月期	前期比
現金預金	12,172	15,566	3,393	支払手形・工事未払金	29,224	30,357	1,133
受手・完工未収入金等	55,948	54,853	△1,095	短期借入金	6,671	4,144	△2,526
その他	2,006	2,919	912	その他	9,277	9,432	154
流動資産 計	70,127	73,338	3,211	流動負債 計	45,173	43,934	△1,238
有形固定資産	2,834	2,701	△133	固定負債 計	2,756	2,218	△538
無形固定資産	715	703	△12	負債 合計	47,930	46,153	△1,777
投資その他の資産	24,956	23,222	△1,733	株主資本	40,949	44,826	3,876
(投資有価証券)	(23,006)	(21,278)	(△1,727)	その他	9,754	8,986	△767
固定資産 計	28,506	26,627	△1,879	純資産 合計	50,704	53,813	3,108
資産 合計	98,634	99,966	1,331	負債・純資産 合計	98,634	99,966	1,331

# 1. 2022年3月期 決算実績 連結キャッシュ・フロー

- 【営業活動によるC/F】 税金等調整前当期純利益 78億9千8百万円  
 売上債権の回収による収入 14億3千1百万円  
 法人税等の支払額 20億2百万円
- 【投資活動によるC/F】 投資有価証券の売却による収入 8億2百万円
- 【財務活動によるC/F】 短期借入金の返済による支出 25億5千万円  
 配当金の支払額 16億2千9百万円

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	3ヶ年合計
営業活動によるC/F	11,172	1,917	7,004	20,095
投資活動によるC/F	179	309	414	903
財務活動によるC/F	△6,993	△2,504	△4,413	△13,911
現金及び現金同等物の 期末残高	12,410	12,095	15,435	—

# 1. 2022年3月期 決算実績 分野別受注高

(単位：百万円、%)

			2021年 3月期	2022年 3月期	前期比
個別	国内一般	新築	34,956	44,176	26.4
		リニューアル	50,374	47,350	△6.0
	原子力		4,186	7,584	81.2
個別受注高			89,517	99,111	10.7
関係 会社	国内		8,175	8,045	△1.6
	海外		5,562	9,040	62.5
連結受注高			103,254	116,197	12.5



# 1. 2022年3月期 決算実績 分野別受注高の概要

【新築分野】 産業分野案件や再開発・医療施設案件が好調で前期比増

【リニューアル分野】 大型案件が一巡するも高水準を維持

【原子力分野】 新規制基準対応工事、緊急時対策所工事が回復

【国内関係会社】 新日空サービスは計画通りに進捗  
日宝工業は依然コロナ禍の影響を受け計画が延期

【海外関係会社】 中国はやや減少  
スリランカ、シンガポール現法はともに回復

# 1. 2022年3月期 決算実績 分野別完工高

(単位：百万円)

			2021年 3月期	2022年 3月期	前期比
個別	国内一般	新築	35,569	36,531	2.7
		リニューアル	49,365	47,990	△2.8
	原子力		7,165	7,528	5.1
個別完工高			92,100	92,049	△0.1
関係 会社	国内		7,731	8,007	3.6
	海外		7,421	6,661	△10.2
連結完工高			107,253	106,718	△0.5

# 1. 2022年3月期 決算実績 分野別完工高の概要

【新築分野】 大型案件が順調に進捗し前期比微増

【リニューアル分野】 微減となるも引続き高水準で推移

【原子力分野】 工事が計画通り進捗して前期比増

【国内関係会社】 新日空サービス、日宝工業とも、ほぼ順調に推移

【海外関係会社】 中国現法は堅調に推移  
スリランカ、シンガポール現法はコロナ禍の影響で  
工事進捗が遅延

1. 2022年3月期 決算実績
2. 2023年3月期 業績予想
3. 中期経営計画の進捗成果と今後の展望
4. 配当方針・配当予想



- 世界経済は、ウィズコロナ社会への転換により、緩やかな回復基調が期待されるが、ウクライナ情勢によっては景気の下振れリスクも存在
- 日本経済は、円安、資源価格の高騰、サプライチェーンの混乱など、足元には不透明感があるものの、建設投資、脱炭素に向けた環境対応投資などが下支えとなり、設備投資は引き続き堅調な見通し
- AIやIoTを活用した技術革新と、カーボンゼロへの対応や、デジタルトランスフォーメーション、働き方改革による生産性向上への取組み、人的リソースの確保と適切な配分などの対応が必須
- 気候変動などの地球環境問題への配慮、人権の尊重、従業員の健康と労働環境への配慮や公正・適切な処遇、取引先との公正・適正な取引、自然災害等への危機管理など、サステナビリティを巡る課題への対応は、リスクの減少のみならず収益機会にもつながる重要な経営課題

日本国内の当社事業領域においては、

- 電子デバイス、精密機器などの製造業の設備投資や、都心を中心とした再開発などの不動産関連投資、及びリニューアル投資も堅調に推移
- 原子力分野は、引き続き発電所の新規制基準対応設備への取組や、福島の新増設事業が継続
- 資機材・労務費の上昇傾向、技術者・技能労働者不足は依然継続

海外では、

- 中国は引き続き日系工場案件が堅調
- シンガポールではコロナ禍で中止されていた主要工事が再開
- ミャンマーはクーデターにより、主要工事が中断し新規案件も停滞

## 2. 2023年3月期 業績予想 分野別受注高

(単位：百万円)

			2022年3月期 実績	2023年3月期 予想
個別	国内一般	新築	44,176	45,500
		リニューアル	47,350	49,000
	原子力		7,584	7,500
	個別受注高		99,111	102,000
関係 会社	国内		8,045	9,000
	海外		9,040	9,000
連結受注高			116,197	120,000

## 2. 2023年3月期 業績予想 分野別完工高

(単位：百万円)

			2022年3月期 実績	2023年3月期 予想
個別	国内一般	新築	36,531	39,000
		リニューアル	47,990	50,000
	原子力		7,528	8,000
	個別完工高		92,049	97,000
関係 会社	国内		8,007	9,000
	海外		6,661	9,000
連結完工高			106,718	115,000



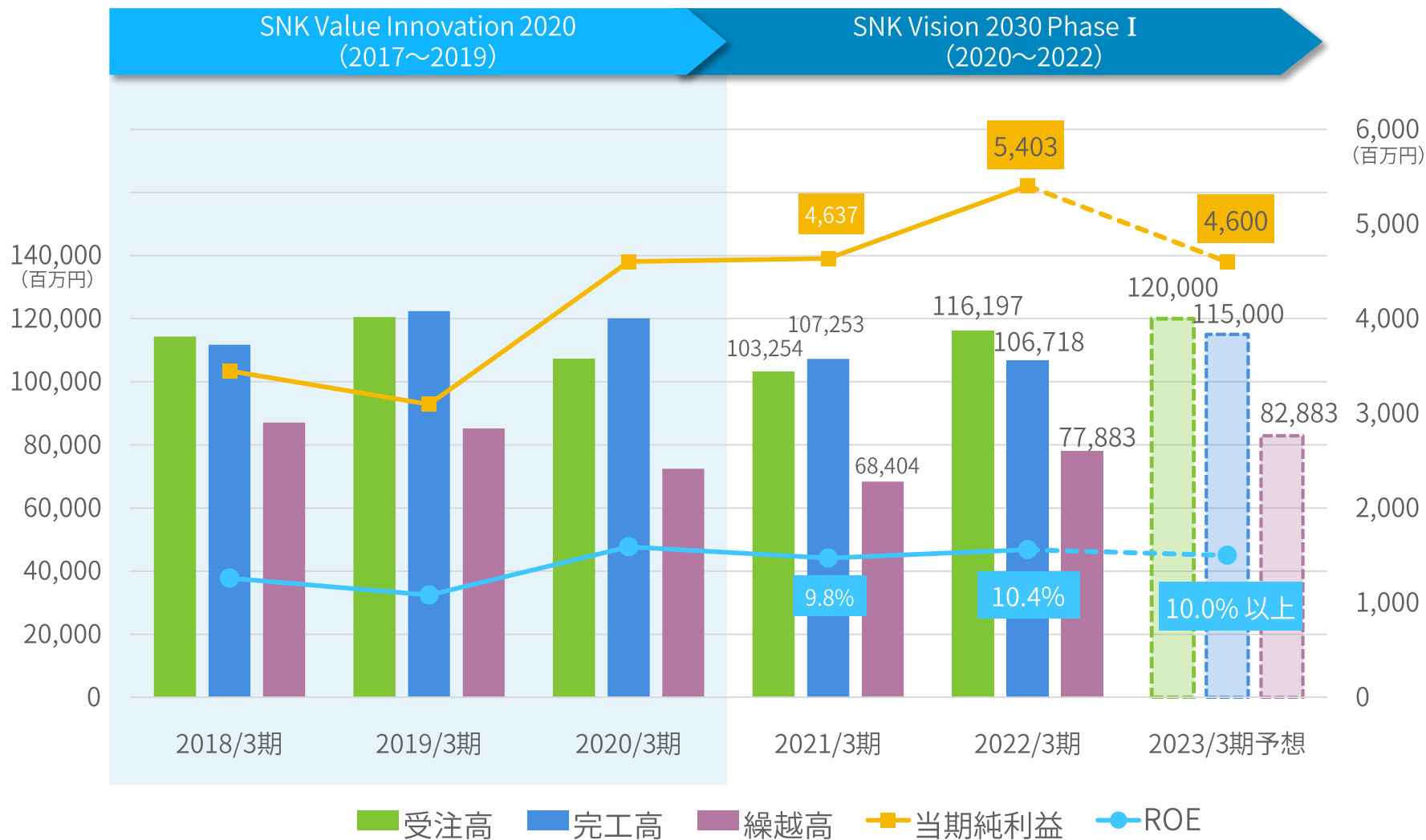
## 2. 2023年3月期 業績予想 連結損益予想

(単位：百万円、%)

	2022年3月期 実績		2023年3月期 予想	
完工高	106,718	—	115,000	—
完工総利益	14,546	13.6	15,100	13.1
営業利益	6,881	6.4	6,500	5.7
経常利益	7,366	6.9	6,900	6.0
当期純利益※	5,403	5.1	4,600	4.0

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益

# 2. 2023年3月期 業績予想 2018年3月期からの連結業績推移



1. 2022年3月期 決算実績
2. 2023年3月期 業績予想
3. 中期経営計画の進捗成果と今後の展望
4. 配当方針・配当予想



### 3. 中期経営計画の進捗成果と今後の展望 「SNK Vision 2030 Phase I」 5つの基本戦略

#### 事業基盤増強戦略

資本コストを意識した事業ポートフォリオの実現と新たな事業領域の展開による収益基盤の拡大

#### 収益力向上戦略

事業収益力の向上と施工遂行力の持続的成長を実現する現場機動力の増強に資する安全品質管理体制の強化と生産性向上を目指す

#### デジタル変革戦略

デジタル変革社会に則した高度情報活用の推進と業務機動性の更なる向上を目指すために、デジタルによる情報活用を推進し、情報通信技術の高度化による当社独自のICTプラットフォームを構築し、存在価値を高める

#### 企業統治戦略

持続的地球環境の実現とステークホルダーの長期的価値向上を見据えCSR・ESG経営の浸透展開と、それを支えるコーポレート・ガバナンス体制の強化

#### 人的資本戦略

多種多様、多才な人材を有し、様々な専門領域にて、自己のキャリアプランと会社のキャリアパスが有機的に結びつく人的資本の育成と、働き方改革を実現する現場や事業基盤増強戦略に基づく事業分野への人材の傾斜配分

### ① 事業基盤増強戦略

#### ➤ 感染リスク低減の取り組み推進

##### 【新開発】

- ・改良型可搬式抗菌フィルターユニット（ウイルスキャプチャー・プラス）
- ・小型空調機用ダクト接続型空気清浄装置『L-ViC™』（エルヴィック）
- ・オゾン清浄装置『Ex-ViC™』（エクスヴィック）



##### 【その他】

- ・商業施設のフードコートでの換気診断と清浄化工事を実施し、当社独自技術の微粒子可視化技術により実施後の効果検証を提供



#### ➤ AIを活用した空調制御技術を開発



汎用性の高いAIで手軽に高精度な空調制御を実現し、省人化と省エネ、省CO<sub>2</sub>に寄与

# 3. 中期経営計画の進捗成果と今後の展望

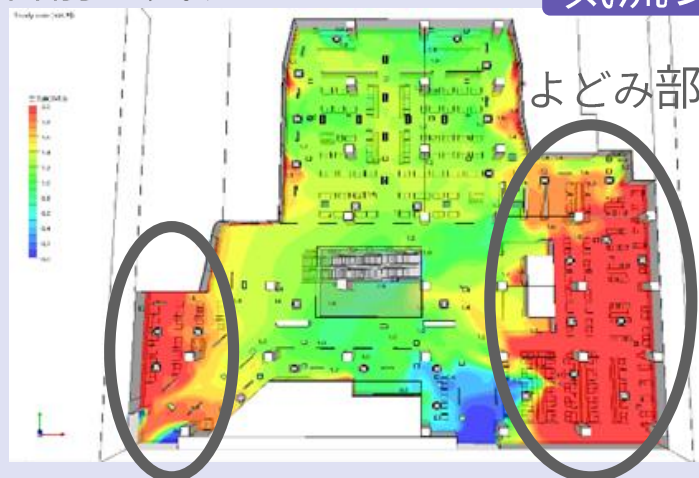
## 進捗成果 ① 事業基盤増強戦略

### 感染リスク低減の取り組み推進～商業施設のフードコートでの改善

改善前の気流のよどみ

気流シミュレーション

改善後



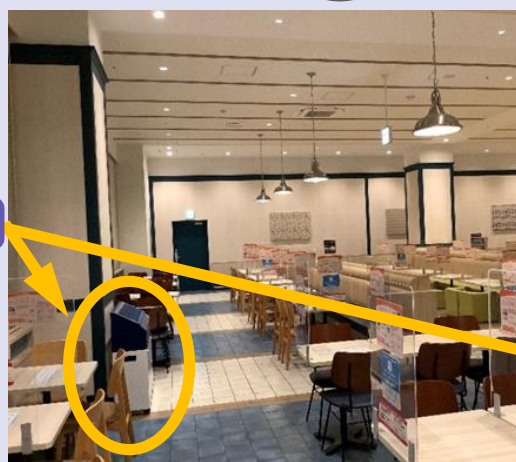
よどみ部分(赤)



よどみ部分(赤)

清浄化改善工事で導入した


空気清浄機



微粒子可視化技術による  
空気清浄機の  
気流の可視化



## ① 事業基盤増強戦略

- 太陽光発電事業を開始   
再生可能エネルギーの供給スタート
- 関係会社との協業推進  
日宝工業の主要取引先工場に、作業空間の快適さと省エネを両立する  
当社独自技術「AiR-Lo<sup>3</sup> (エアロスリー)® FLEX」を導入
- 海外事業の進捗  
ベトナム（ホーチミン市）に駐在員事務所を開設し、  
新規投資先として有望視されるベトナム国の情報収集に着手

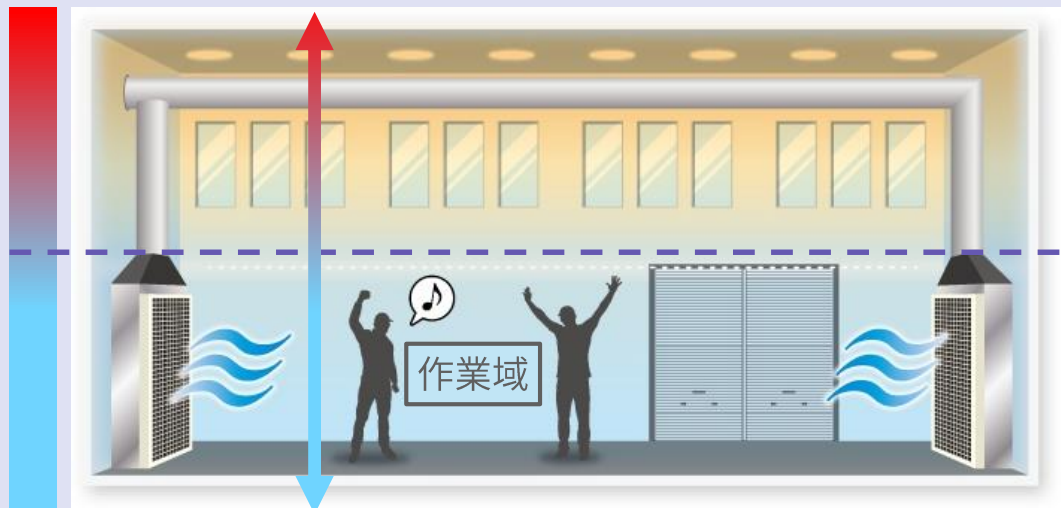
### 3. 中期経営計画の進捗成果と今後の展望

#### 進捗成果 ① 事業基盤増強戦略

関係会社との協業推進 ～日宝工業の主要取引先工場に、  
当社独自技術「AiR-Lo<sup>3</sup> (エアロスリー)® FLEX」を導入

工場など、天井が高く広い空間の空調エネルギーの  
ムダを省き、作業空間の快適さと省エネルギーを両立  
します

高層部の非作業域は  
成行きで空調負荷削減




低層部の作業域は  
快適な温度に





## ② 収益力向上戦略

### ➤ 現場業務の効率化に向けた建設DXの取り組み推進

- ・ 測定作業の効率化～当社独自技術の環境測定用無線センシングシステム「Wi-Musu<sup>®</sup>」（ワイムス）に、風速測定機能を拡充  

- ・ 温湿度、CO<sub>2</sub>濃度、照度、浮遊粉塵濃度、騒音値、風速を同時測定
- ・ 現場調査の効率化～3D計測・ドローンの利用

### ➤ 現場作業の省力化推進

- ・ 大型物流拠点を活用した場外加工場で、集中プレハブ加工による現場工数削減
- ・ そこで加工された資機材を、現場では組み立てるだけの状態で搬送する「プラモデル工法」や、「通い箱」を利用した簡易梱包と、使用場所ごとの集約運搬により、現場作業と産業廃棄物の削減

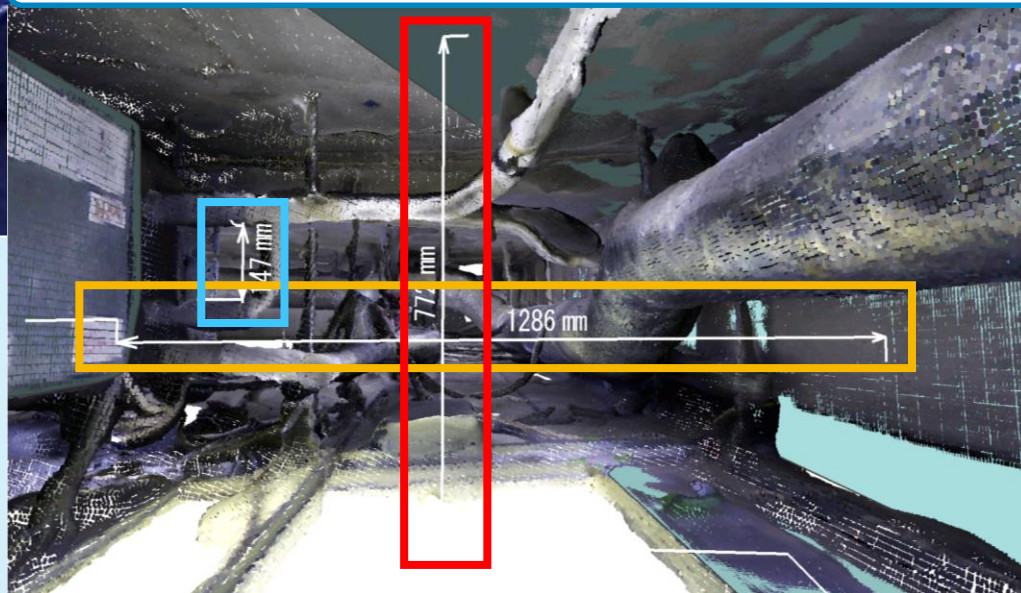
### 3. 中期経営計画の進捗成果と今後の展望 進捗成果 ② 収益力向上戦略

#### 現場調査の効率化～3D計測・ドローンの利用

ドローン飛行による撮影状況  
(オフィス天井内)



ドローン撮影による寸法データ写真  
(オフィス天井内)



### ③ デジタル変革戦略

3つのステップに分けて実行する「デジタル変革」のすべての業務プロセスをデジタル化する第1フェーズを進行中

#### ➤ DX推進体制の整備

デジタル推進委員会およびデジタル推進室を設置

#### ➤ 工事業務のデジタル化強化







- ・クラウド型の新工事業務管理システムを稼働
- ・新積算システムとBIMデータとの連携に着手

#### ➤ 基幹システムの刷新

基幹システムの刷新に着手し、次期新基幹システムでは、他システムとの連携が可能となるシステムを計画

#### ④ 企業統治戦略

- サステナビリティを巡る課題への対応 
  - ・取締役会の委員会としてサステナビリティ委員会を組成し、CSR・ESG体制を発展させて新たな役割を明確化
  - ・気候関連財務情報開示タスクフォース   (TCFD) への賛同表明と、TCFD提言に基づく気候関連情報開示の推進強化
- 脱炭素社会の実現に向けた取り組み推進 
  - 再生可能エネルギーの導入によるCO2排出量の削減
- コーポレートガバナンス体制の強化
  - ・コーポレートガバナンス・コード改訂への積極的な対応推進
  - ・非財務情報の開示・提供を推進強化

## ⑤ 人的資本戦略

### ➤ 多種多様、多才な人材の活用と採用推進

- ・ 新人事制度の運用開始  
「職能型」から「職務型（役割等級型）」への変更、職員コースの複線化、定年年齢65歳へ引き上げ、初任給引き上げを実施
- ・ 専門性の高い多様な人材の採用に向けた、ジョブ・リターン制度の新設とキャリア採用を推進



### ➤ 健康経営®の取り組み推進

- ・ 従業員一人ひとりの健康維持、増進が何よりも重要と捉え、健康経営の推進のため「健康経営宣言」を制定
- ・ 健康経営優良法人2022（大規模法人部門）の認定

※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



### ➤ ダイバーシティ経営への取り組み推進

女性管理職の増加、男性職員の育児休暇取得を促進

## 今後の展望

- 技術開発、成長分野への投資などによる事業基盤の増強
- グループ全体の業務プロセスのデジタル化による収益力の向上
- サステナビリティを巡る課題への取組み強化
  - ・ パリ協定に整合する持続可能な企業としてSBT※認証取得
  - ・ 人権を巡る問題への取組み強化
- 人的資本の増強と健康経営、ダイバーシティの推進

※SBT (Science Based Targets : 科学と整合した目標設定)

1. 2022年3月期 決算実績
2. 2023年3月期 業績予想
3. 中期経営計画の進捗成果と今後の展望
4. 配当方針・配当予想



## 配当方針

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題の一つと位置付けており、安定的に株主の皆様へ還元するため、引き続き利益配分に関する基本方針として、連結配当性向 30% 以上またはDOE（株主資本配当率）3% を下限として、還元してまいります

## 配当予想

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 予想
年間配当金（円）	70	75	75
（特別配当（円））	（15）	（10）	
連結配当性向（%）	35.1	32.3	38.0
DOE（株主資本配当率）（%）	4.1	4.1	3.8



## 免責事項

ここに記載されている当社の財務状況、経営方針、計画、業績目標等のうち歴史的事実以外の記述はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらはリスクや不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、これらの予想とは大きく異なる可能性があります。

各種データ・資料については細心の注意を払っておりますが、記載された情報の誤りや第三者によるデータの改ざん等本資料に関連して生じる障害・損害について、その理由の如何に関わらず当社は一切責任を負うものではありません。

## お問い合わせ先

新日本空調株式会社

経営企画室 企画部 コーポレートコミュニケーション課 担当：多田邦彦

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号 浜町センタービル

TEL：03-3639-2701 FAX：03-3639-2731

Mail：tadak@snk.co.jp